

駅までウォーキング

「歴史と季節を楽しむ」

今回紹介するコースは、数年前に当NPO法人主催の「新緑ウォーキング」で歩いたルートですが、湯沢ぐらしには、掲載していませんでしたので今回掲載させていただきます。

歩くルートは、三俣から越後湯沢駅までです。国道17号線ではなく、旧道の史跡と風景を楽しむ、約13kmほどですので、ゆっくり歩いて半日楽しめるコースだと思います。

三俣に残る史跡の資料の詳細は、
<http://www.dpl-jp.com/mitsumata/>
 を参照ください。

三俣までは、越後湯沢駅東口から苗場・三俣方面へ路線バスがあります。バスで25分、みつまた中央のバス停で降り、まずは「旧脇本陣・池田家」へ向かいまます。この建物は、徳川幕府が三国街道を整備し、宿場制度を定めた約370年前に建てられ、ほぼ当時のままの状態で保存されています。脇本陣ですので、参勤交代の時に大名家の家老や佐渡奉行などが宿泊しました。

当時の佐渡は金・銀の産地で幕府にとって大変重要な土地でした。佐渡奉行は2名おり、一年交代で佐渡と江戸に赴任



建物内部の見学を希望する場合は、事前にお電話にてお申し込みください。(☎025-788-9119 池田家)

します。佐渡へ向かうときに、ここ池田家に宿泊することになります。佐渡から江戸へ帰るときは、直江津から善光寺・高崎へと続く北国街道を通りました。また、明治の初めには、山形有朋や森鷗外が宿泊した記録もあります。他に2件あった脇本陣と本陣は、災害で失われました。

池田家から30mほどのところに伊米神社があります。ここは、山岳信仰の山、苗場山の里宮として祭られています。毎年7月12日には、伊米神社大祭が行われます。使われている神輿は、江戸時代に大阪で制作された後、北前船で新潟まで運ばれ、信濃川・魚野側の川運の使ったと伝わりま

す。
 ここから、旧道を湯沢方面へ向います。大正7年に三俣の集落を襲った雪崩の記録を後世に伝えるために建立された「雪災碑」を左手に「街道の湯」を過ぎるとスノーシェッドが見えてきます。ここは、なだれの名所でありました。三俣の人は、冬になるとスノーシェッドの場所が大変危険なため、スノーシェッドを過ぎるとすぐにある大島橋を大島の集落へと渡り、清津川の対岸を上り、また三俣へと戻るための仮設の橋を掛けて冬期間の交通を確保していました。大島橋からすぐのところ、八木沢観音堂と八木沢留番所跡



伊米神社大祭と神輿

るように改修された道です。坂道を登っていくと江戸時代に使われていた本当の旧道が山肌に見えます。芝原峠は、山を

の看板があります。江戸時代に三国街道を行き来する人と物資を取り締まるために置かれた関所跡です。
 ここからは、旧道を芝原峠・荒戸城跡を目指して登っていきます。旧道といっても江戸時代の道ではなく、戦後に車が通れ



伊米神社



芝原峠



▲越後三山(越後駒ヶ岳・中ノ岳・八海山)から大源太山まで一望できる

◀荒戸城跡

援軍を防ぐために上杉景勝が築かせた城です。北条氏のために二度落城しました。二度目の落城のときに直江兼続の一族の樋口兼一が戦死したと伝わります。この戦で焼失した樋口一族の菩提寺であった泉福寺を再興したのが直江兼続であったことも、直江兼続湯沢生誕説の根拠の一つとなっています。



かに、新田氏の武将の中に笛田という武將の名前がありますので、この笛田氏の末裔でしょうか。芝原集落の急坂を下り国道17号線を横切ると、荒戸という集落があります。「上田土籍」という古文書には「新戸」という記載がありますので、昔は新戸と書いたのかもしれませんが。荒戸城のもとになったと考えられます。NASSPAニューオータニの前を過ぎ、湯沢市街地へ向かいます。坂を下りきつたところに「熊野神社」続く石段を登り、熊野神社に向かいます。この熊野神社の氏子は、樋口一族です。樋口姓は、魚沼市・南魚沼市にはあまりありません。十日町市周辺にはたくさんあります。十日町市にも樋口姓が多くあります。

この地方は、古くから信濃川を通じて信州と交流が深かったのだと思います。余談になりますが、信州のおやき・越後のあんば・笹団子これらのものに共通するのは、ヨモギです。みなヨモギを練りこんであります。新潟の北部には五平もちなどがありますが、ヨモギは使いません。石段を下りて、越後湯沢駅に向かいます。鎌倉建長寺の精進料理だったと言われる「けんちん汁」など魚沼地方の食事を楽しみませんか。B級グルメは得意ではありませんが、多くのすばらしい食材に恵まれた湯沢です。新緑・紅葉を目で楽しみ、食事を舌で楽しみ、きつと心身ともにリフレッシュできる一日になると思います。

NPO法人
ゆ
林 敏 幸

削って造られ、さらにブナ林に囲まれていますので、眺望が良いわけではありません。

峠をちよつと下ったところまでいくと、越後三山(越後駒ヶ岳・中ノ岳・八海山)から東洋のマツターホルと言われる大源太山まで一望できる場所があります。その手前に、「荒戸城跡」という看板が見えます。ここから15分ほど登ると荒戸城本丸跡に到着します。

本丸下には、空堀が残っています。この荒戸城は、上杉謙信の亡き後、上杉謙信の甥で養子となった上杉景勝と小田原北条氏から養子となった上杉景虎が跡目争いの戦(御館の乱)のおり、北条家の

芝原峠を下っていくと国道17号線の芝原トンネルの脇に出てきます。ここから国道17号線を下り、芝原の集落に入っていきます。

この集落は、殆どの人が笛田という姓です。南魚沼地方は鎌倉時代以降、北条氏・足利氏・新田氏・上杉氏などの関東の武家勢力の支配地になっていました。南北朝の争いに敗れた新田一族がここに住み着いたという説があります。確

樋口家の他、上越線の建設に尽力した岡村貢の岡村家など、祖先が木曾の出身だとの伝承が残る家が多くあります。木曾を出たこれらの人々は、善光寺・飯山・十日町と経由してこの地域に移り住んできたのだと考えられ



樋口一族が氏子の「熊野神社」